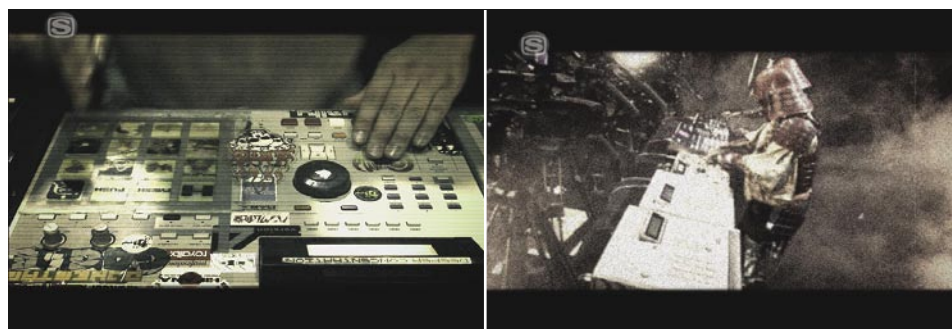


HDV フォーマットを活用した Adobe Video Collection による高品質な編集



ZAMURAI TV

2004年9月20日(月)に、SPACE SHOWER TVで放送した番組「ZAMURAI TV」は、渋谷 club asia で開催された“HIFANA PRESENTS ZAMURAI 四”のライブ映像を基にCGやアニメーションなどで加工を施した新しい映像表現を試みたもの。ライブは、VJアーティスト HIFANAをはじめ GAGLE、DJ KENTARO、TUCKER、AFRA、Leyona など、多数のアーティストがパフォーマンスを行っている。この番組は好評を得て、2005年12月7日にDVDとして発売する。

この番組のライブ映像は、CAVIAR(キャビア)の中村 剛氏、ELECROTNIK(エレクトロニック)の中根 ひろし氏と中根 さや香氏、そしてPYRAMID FILM INC.(ピラミッドフィルム)の田中 裕介氏など、現在活躍中の数名のディレクターが担当した。

今回、11月に開催された映像の祭典 RESFEST 2005 におけるワークショップで展示するため、DVD用の特典映像はSonyのHDVカメラZ1JとA1Jで撮影し、Adobe® Video Collectionのソフトウェアを使用してクリエイティブな制作を行った。

HDVフォーマットの画質のよさは、表現の可能性を広げてくれると全員が賞賛しており、これを機としてHDVカメラを採用しはじめた三社に、HDVカメラとAdobe Video Collectionの活用についての話を伺った。



中根 ひろし氏

中根 ひろし、中根 さや香 (エレクトロニック)

エレクトロニックは、中根 ひろし氏、中根 さや香氏によって2001年に結成されたデュオディレクターのチーム。ZAMURAI TVでは、DJ KENTARO、TUCKERのライブ映像とGAGLEのDVD特典映像を担当している。

結成前の両氏は、映像制作会社に勤務していたため、撮影、合成用アニメーション、編集など全て自ら制作することを基本としている。両氏は、ディレクターとして撮影に立ち会い、同時に合成用CG制作を進行し、編集、合成と一連のワークフローをこなす。2D素材作成にAdobe® Photoshop®、Adobe® Illustrator®、そして3D制作にはSoftImage XSI、編集にはAdobe® Premiere® Pro、合成にはAdobe® After Effects®、LEITCHのRealityなどを駆使している。



中根 さや香氏

エレクトロニックは、PVを中心にCM、番組タイトルなどを手掛けており、m-flo、HIFANA、オーディオアクティブ、ケンイシイ、THE MAD CAPSULE MARKETS、EL-MALOなどのPV、スペースシャワーTV、ZOOM、body and soul、コココーラC2ビルボード、MARUI sparkling sale 2004 お正月(ASA-CHANG)のCMなどの作品がある。

最近の作品でHDVカメラSony HVR-Z1Jを駆使した例として、アーティストbonobosとGAGLEのPVがある。GAGLEは、ZAMURAI TVでもライブ映像を担当したアーティストで、SPACE SHOWER TVのステーションIDの役割も担っている。

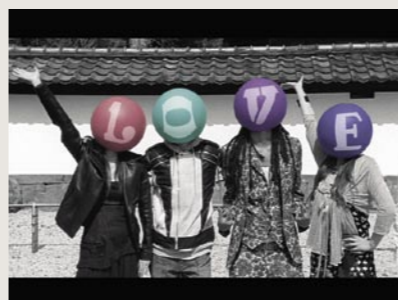
bonobosのPVは、大阪出身のメンバーが上京してくる様子を背景とするコンセプトにあり、大阪から東京までの移動経路をSony HVR-Z1Jで撮影した。合成する



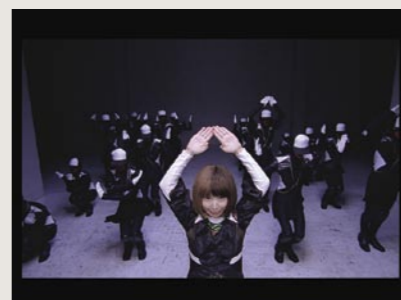
GAGLE PV



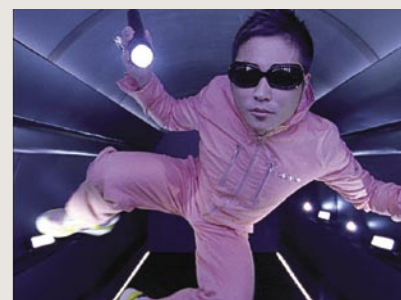
ZAMURAI TV の DVD 特典映像を編集した Premiere Pro 1.5.1 の画面。素材はすべて HDV。



米国コカ・コーラ社『Coke M5』



YUKI『JOY』



m-flo『DOPAMINE』



中根 ひろし氏



中根 さや香氏

メンバーの演奏は別途スタジオで撮影し、同時にタイトルなど合成用 CG も作成、これら素材を Adobe After Effects で合成している。「HDV フォーマットは大変画質がよく、1 フレームを静止画素材として使用するに十分なクオリティーを持っています。また、撮影中、わざとカメラを揺らす演出を行った際、通常だったらマッチムーブなどを行って後処理を必要とする素材も、HDV フォーマットのクオリティーの高さによってその必要がありません」と中根 ひろし氏は話している。

GAGLE の PV は、メンバーが築地市場で演奏しているシーンを HDV カメラで撮影。3DCG を駆使したアニメーションと合成している。また、HDV のクオリティーの高さによって可能な拡大画像を演出に多様している。取り込みには Premiere Pro 1.5.1 を使用した。

「我々のように全行程の制作を行う者には、1 台のマシンで素材作成からビデオ取り込み、編集、合成、書き出しまで全て完結することが一番の理想です」と中根 ひろし氏、中根 さや香氏の両氏は話しており、これは、Adobe Video Collection が提案している制作環境のニーズの高さを示している。

「現在、綿密な合成作業を行うためにも非圧縮のデータを扱い、またコストパフォーマンス性の高い環境の必要性を感じています」とも言っており、これは入出力カード DeckLink や Bluefish444、Matrox Axio など Premiere Pro を組み合わせたシステムの需要が制作現場で発生していることを表している。

両氏は「作品において、いろいろな演出要素を取り入れることが我々のスタイル。視聴者を飽きさせないことを目指しています」と話しており、その演出を具象化させる HDV フォーマットと Photoshop、Premiere Pro、After Effects などのクリエイティブツールを統合した Adobe Video Collection を賞賛している。

中村 剛 (キャビア)

ZAMURAI TV で、HIFANA、GAGLE、DJ KENTARO、TUCKER などのアーティストの映像を担当したのが、映像ディレクターであるキャビアの中村 剛氏だ。中村氏は、2000 年のキャビア設立以前、NY フェスティバルのファイナリスト賞、ファッションブランド「BOYCOTT」のプロモーションビデオで NYADC 銀賞、MTV JAPAN「REMTV」で文化庁メディア芸術祭優秀賞など、多数の賞を受賞した実績がある。

キャビアは、ディレクター 2 名、2D アニメーター 1 名、3D アニメーター 1 名、Flash アニメーター 1 名のスタッフで構成されており、中村 剛氏と黒川 静香氏の両氏がディレクターとして活躍している。また、黒川氏はディレクターとして活躍するかたわら自らオフライン編集も担当しており、ZAMURAI TV のためのオフラインも行った。

キャビアの主な作品は、TVCM、PV、番組のアニメーションタイトルなどで、コーセー化粧品品のヴィセシリース、SonyEricsson 携帯電話などの TVCM、YUKI や m-flo などアーティストの PV、そして NHK 連続テレビ小説「てるてる家族」や日本テレビのニュース番組「きょうの出来事」などのオープニングがある。

キャビアの素材制作ツールは、Adobe Illustrator や Adobe Photoshop などの 2D ソフトをはじめ、3D 制作では Autodesk 3ds max や Cinema 4D などを使用している。そして、合成のメインツールが Adobe After Effects だ。

今回の ZAMURAI TV の DVD 特典映像制作では、Adobe Premiere Pro が使用された。HDV カメラ Sony HVR-Z1J と Premiere Pro 1.5.1 の組み合わせだ。「HDV カメラを使用するのは初めてだったのですが、DV などと比べても、かなりクオリティーが高いと感じました」と中村氏は感想を述べている。「HDV フォーマットの素材は、最終的には SD サイズに落としても、画質の違いをはっきりと示しています」と話している。

黒川氏の通常のオフライン編集は、取り込んだ素材を DV 圧縮して編集し、EDL をポストプロに持ち込むと言う。「今回使用した Premiere Pro に違和感はなく感じませんでした。特に音楽のリズムの刻みに合わせて映像を切り換えるため、音の波形表示がスムーズなことは、PV 制作における Premiere Pro の大変有意義な点でした」「HDV 素材については確かにクオリティーが大変高いと感じています。HDV と Premiere Pro の組み合わせでは、HDV データを Premiere Pro で扱う AVI フォーマットへの変換工程がより向上すれば、さらに効率的なワークフローが図れるでしょう」と黒川氏は話している。このようなニーズに応えた製品に「CineForm Aspect HD for Adobe Premiere Pro」がある。これは Premiere Pro 1.5.1 に対応したプラグインソフトで、HDV 編集パフォーマンスを向上させるほか、専用のリアルタイムエフェクトが使えるようになる。また、Premiere Pro 1.5.1 でキャプチャした HDV 素材は、そのままでは他ソフトで扱うことができないが、Aspect HD をインストールすることで取り込んだ素材を After Effects でも使用できるようになり、Premiere Pro と After Effects の効率的な連携作業を促進する。

普段の撮影には 35mm フィルムを使用することが多いと質感へのこだわりを見せる中村氏は、HDV フォーマットのクオリティーに十分な満足を示しており、今後も活用していく意志を表している。

田中 裕介 (ピラミッドフィルム)

ZAMURAI TV の Tucker の映像は、田中 裕介氏が担当した。田中氏は、TVCM をメインとして企画から制作までを行うプロダクション、ピラミッドフィルムに在籍する。多摩美術大学でグラフィックデザインを専攻していた田中氏は、ピラミッドフィルムに入社して 5 年目を迎える。

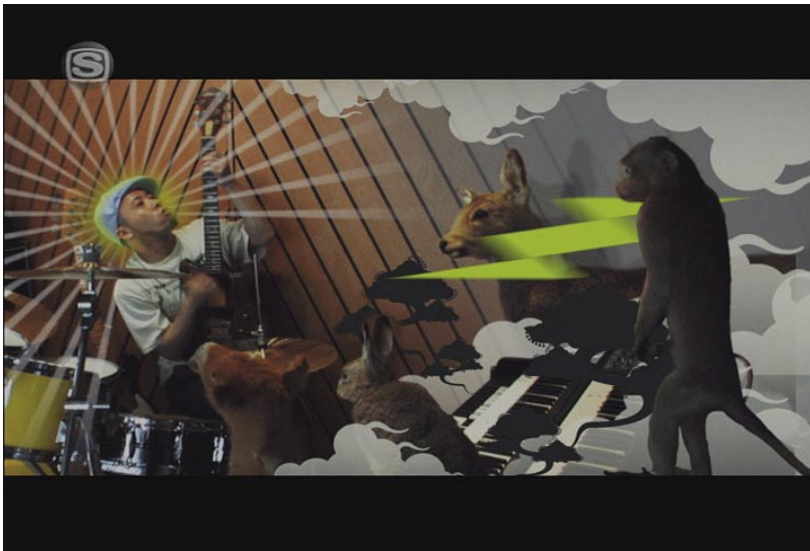
ディレクションから、自ら素材用 CG 制作まで全てをこなす田中氏の最近の作品では、SOUL'd OUT や NEUTRINO、G.Rina などアーティストの PV、携帯電話 vodafone、名古屋のファッションビル・サンシャイン栄などの CM がある。田中氏が扱うメインツールは Adobe After Effects で、学生の頃より慣れ親しんでいると言う。3D 制作では SoftImage XSI を使用してモデリング、テクスチャ、マッピング、アニメーション付けまで一通りこなす。また、手描きでのグラフィックスを得意とする田中氏は、PC にタブレットを備え付けており、Adobe Photoshop や Adobe Illustrator など目欠かせないツールだ。

Tucker の撮影では、HDV カメラ Sony HVR-Z1J を 5 台設置してライブを撮影。また VE と共に詳細なカメラ設定を行い、後の合成加工を考慮して、プログレッシブモードで撮影した。HDV フォーマットは、1080i(インターレース) と、720p(プログレッシブ) の 2 種類の記録フォーマットがあり、両フォーマットとも縦横比は 16:9 のワイド画面という、ハイビジョンクオリティーの新しい映像規格だ。Adobe Premiere Pro は両方のフォーマットに対応している。

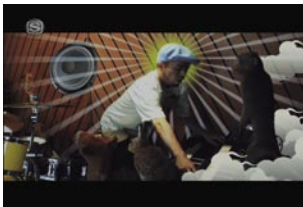
撮影した素材は「CineForm Aspect HD for Adobe Premiere Pro」を使用して Premiere Pro に取り込んだ。制作日数の関係もあり、作業の効率化を図るために Premiere Pro 上で DV サイズに落とし、Premiere Pro よりタイムコードなどの情報を得て After Effects に持ち込み、合成やエフェクト、カラコレなどを行って完成させた。After Effects では連番ファイルに書き出し、



田中 裕介氏



「ZAMURAI TV」TUCKER ライブ映像



それをポストプロ工程に運んで納品形態であるデジタルベータカムに変換した。

「HDV フォーマットは、HD サイズでクオリティーが高いということだけではなく、カメラと PC を直接接続して取り込みができること、miniDV テープへの録画が可能などという便宜性があります。また、HDV の絵の特徴として、エッジがシャープであることもあり、作る作品の狙いによっては、その特徴を有効に利用できると思います」
「またシャープであるため、抜きやマスクが描きやすいとも感じました。グリーンバック撮影にも、やはり HD ほどの情報量があればベストです」と田中氏は話している。

自ら合成用グラフィックスを手掛ける田中氏だが、実写のみで作品を作ることもあると言い、特にグラフィックスのみにこだわっていない柔軟性も示す。「HDV カメラの発達をはじめとして、撮影方法も広がってきています。特にビデオのクオリティーの向上には目を見張るものがあります。アイディアの持ち方によって、さまざまな面白い実写での表現が可能となりました。」

また、田中氏は「カメラやアドビ製品などの制作ツールや技術の発達によって、自分が学生であった頃に不可能であった多くのことが、たった 5 年経過した現在では可能となってきています。その環境を有効に活用すれば、クリエイターの持つクリエイティブ性の可能性はより高まってくるのではないのでしょうか」と話している。

まとめ

今後ますます広がるであろう HD の波を一部のプロユーザーだけではなく、多くの若手クリエイターにも手の届くものにした HDV。その可能性は計り知れない。そしていち早く HDV をサポートしたアドビは、HD 品質の映像に「表現」を加えることのできる Premiere Pro や After Effects、Photoshop、Illustrator、そしてこれらを統合した Adobe Video Collection を提供することで、HD 時代のクリエイターを支援し続けて行くのである。

お問い合わせ先

アドビ製品は、お近くのアドビ認定ディーラー (AAD: Adobe Advanced Dealer) でお問い合わせください。AAD リストをはじめとする最新情報は、アドビ システムズホームページ (www.adobe.co.jp) で入手して下さい。製品の購入に関する詳細はカスタマーインフォメーションセンター (tel.03-5350-0470) へお問い合わせください。

アドビ システムズ 株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー・www.adobe.co.jp
Adobe Systems Incorporated 345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA・www.adobe.com

アドビカスタマーインフォメーションセンター (製品に関するお問い合わせ) 03-5350-0470
アドビストア (注文専用) フリーダイヤル 0120-60-3884 または 0120-61-3884

受付時間 9:30~17:30 土、日、祝日および弊社指定休日を除く

※アドビストアはアドビのオンラインストアです。

Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Premiere Pro および After Effects は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利所有者の所有物です。

© 2004 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.

